

しん せい かい 新政会だより

Vol.4

平成19年8月20日
発行

所属委員会(任期後半)

- 総務財政常任委員会 平野久樹
- 建設産業常任委員会 畑野久一
- 文教民生常任委員会 野本信行
齊藤伸一
伊藤文博



◆ 新政会勉強会

農業構造改革特区認定による、
企業の農業分野への参入状況見学

(株)糸魚川農業興社 岩野ファームにて

前列左より 野本信行 畑野久一 伊藤文博
後列左より 齊藤伸一 平野久樹

ご挨拶

市民の皆様方には、私たち「新政会」に
対し、日頃より貴重なご指導、ご意見
を賜り、心からお礼申し上げます。
また、この度の中越沖地震の被災者の
方々及び関係者の方々に、心よりお見舞
い申し上げます。

平成の大合併に伴い、新たに選出され
た「新議会」において、私たちは政策中心
の集団として5名で「新政会」を立ち上げ、
新市の主要課題の着実な前進と市民の一
体感の醸成に努めてきました。

わずか2年ではありますが、定例議会
毎に5名全員が一般質問を行ってきたほ
か、昨年12月末には「新政会」として米田
市長に10項目にわたる予算要望書を提出
し、市政への私たちの考えの反映に努め
てきました。

5月から任期後半に入り、更に市民各
位の負託に心えるべく、それぞれ所属す
る常任委員会、特別委員会における活動
を中心に「政策集団」として当市の重要課
題であります、

- ① 市民の安心・安全のための、姫川病
院閉院に伴う地域医療体制の早期改善
の整備
 - ② 少子、子育て対策の充実と教育環境
の整備
 - ③ 地域産業の振興を図るため既存企業
の育成と新産業の誘導
 - ④ 東バイパス、新幹線駅周辺、中央大
通り線等の整備促進
 - ⑤ 行財政の効率的運営と住民自治機能
の充実
- などを重点に、市民の皆様方と共に歩む
決意でありますので、変わらぬご指導を
お願い申し上げます、ご挨拶といたします。

新政会会長 畑野久一

私たち新政会は、政策集団を自負し、糸魚川市の
将来を真剣に考え、市民の方々の声を聞き、研鑽を
重ねながらの会派活動・議会活動を活発に行ってい
ます。

視察・研修

研修課題 埼玉県秩父市

1. 職員の意識改革について
2. 危機管理態勢の充実について
3. 工事成績評価システムについて
4. 町内会等事務費助成制度について
5. 奨学資金貸付事業について

1. 職員の意識改革について

① 市長の方針
平成15年5月に就任した栗原稔秩父市長は、着
任早々の職員への訓辞で「あいさつ」と「笑顔」の
徹底実行を訴え、株式会社あいさつ、株式会社笑
顔を標榜したそうです。

以来、職員には浸透し、市民の評価も高いと聞
いています。

以下の秩父市の取組にも、市長の姿勢が伺え、
そのリーダーシップの強さを連想させます。

【その他の取組】

- ② 行政に関する提案制度
- ③ 昇任試験制度
- ④ 人事評価制度
- ⑤ 外部講師による職員研修

◆ 感想

秩父市の職員の意識改革に対する先進的な取組に
は、市長のリーダーシップが大きく影響しています。

行政マンとして業務が遂行できている中で、更なる
改善を求められることに対して、職員として必要性を
感じることができるか、積極的に取り組むことができ
るかは、その意識によるところが大きいでしょう。

職員の意識改革を図りながら改善を求めていく秩
父市の手法は大いに参考になりました。単に提案

制度を設けるだけでなく、提案から実行までのシステムを確立したところに従来の行政にはない手腕の冴えを感じました。



秩父市役所にて

※紙面の都合により他の研修項目は省略します。

JR北海道でのDMV(デュアルモードビークル)導入に向けた背景、当地での実現性の把握

JR北海道DMV推進センター
北海道網走市

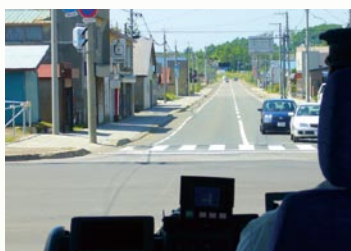
◇DMV(デュアル・モード・ビークル)とは

道路とレールを双方向に走行可能なバスで、乗り換えがわずかに10〜15秒。既存のレールと道路をそのまま走行するので、大規模なインフラ整備が必要ありません。

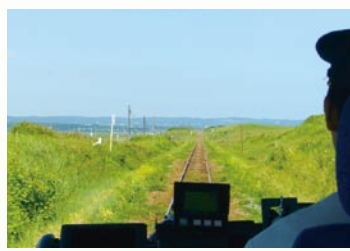
新幹線開業後の在来線での活用の道を探ります。



レール用車輪が出た状態



道路上走行



レール上走行

◇運行コスト

	燃費	重量	メンテ経費
DMV	6.0km/L	6.5t	100万円/年
気動車	1.4km/L	40t	440万円/年

DMV=レールの損傷は殆どない

◇今後の課題

- 今冬で雪対策の長期テストを実施予定。
- 定員増を検討(現状12人↓29人乗り連結3両約90人)し、量産化に向け開発中です。
- 現在の制度ではJR職員が道路上のバスを運転できないためレール上と道路上の運転士が必要となります。
- 従って、自治体と地元バス会社の共同による導入が重要です。

◇感想

路線運行や観光目的での運行として導入に向けた可能性は大きく、各地で導入を目指した検討が進められています。

JR西日本も開発に向け視察を繰り返している、新幹線開通後の在来線収支改善策や大系線存続への一考として、導入への可否も含めたJ



道路上は運転士が交代

Rと行政の協議を進めるべきと感じました。また、当地域の場合は冬場の対策が重要となるため、JR北海道による今冬のテスト結果を確認する必要があります。試験運行3ヶ月間の視察の内、約4割が行政や3セクによるものであり、各地で検討の組上に乗せようと必死に取り組んでいるようです。

その他の視察・研修

県内特産品PR状況(ネスパス)
東京都渋谷区(新潟館 ネスパス)
滝川市活力再生プランの策定と取り組み状況
北海道滝川市

勉強会

農業構造改革特区認定による企業の農業分野への参入状況

- (株)糸魚川農業興舎(株)合村建設)
- 岩野ファーム(大和川) 市野々(西海)
- (株)小田島建設 (旬やる米花農業(根知))

今回3回目の現地勉強会として糸魚川市が農業構造改革特区の認定を受けたのに伴い、農業法人を立ち上げ農業参入した2社を訪問し、現状と将来展望について、現地にて説明を受け、実情を把握してきました。

◇感想

両社共に、「地域再生」「活力の維持」を目標に農業に参入していて、主産物は水稲で中山間地の耕作放棄地を受託しての耕作です。今後さらに耕作面積を拡大すると共に、トマト、越の丸ナス、そば、豆などの生産も行い、地域と共生できる農業事業への取り組みに頑張っております。

両社共に、経営規模の拡大、生産基盤確立、経営基盤の確立を今後の課題としており、今後の地域農業の課題を連想し、考えさせられました。



小田島建設・越の丸ナス



岩野ファーム・トマト



市野々の圃場

編集後記

中越沖地震で被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。二天災は忘れた頃にやってくる」と言いますが、中越大地震、能登半島地震と大きな地震が短い期間に集中し、忘れる間もないのは地球環境の変化が大きな要因となっているのでしょうか。

いつ災害がやってきてもいいように、日頃の備えが肝心です。防災無線の個別受信機の申し込みは終了しましたが、皆さん申し込みはお済みでしょうか。

防災の仕組みづくりは大切ですが、一人一人の日頃の備えを高めておくことも重要でしょう。

「備えあれば、憂い無し」ですね。暑さ厳しき折、夏ばて、熱中症にご注意ください。

編集子(F・I)

